

吐 喝 喇 群 島 の 蟻 數 種

安 松 京 三

九州帝國大學農學部昆蟲學教室

SOME ANTS FROM THE LINSHOTEN ISLANDS

By KEIZÔ YASUMATSU.

昭和9年(1934)5月江崎悌三先生は澁澤子爵の十島探訪團に参加され、吐喝喇群島の諸島を訪問、昆蟲の觀察及び採集に努力された。その時の採集品は全部九州帝國大學農學部昆蟲學教室に保存されて居るが、私はその中の蟻類數種に就いて記録しておきたいと思ふ。

從來吐喝喇群島からは1種の蟻も記録された事がないので、江崎先生の採集された種は全部同群島から最初の記録となるわけである。

先づ材料に就いて御援助を賜り且御指導の勞を執られた江崎悌三先生に深謝の意を表する。

Subfamily MYRMICINAE フタフシアリ亞科

1. *Pheidole nodus* F. SMITH 1874 オホツアカアリ

職蟻2頭, 14. v. 1934, 竹島 (Apollo Island).

本種は九州・四國・淡路島・伊豆大島及び本州に廣く分布して居る普通種で、本州に於ては表日本の海岸地方に沿うて房總半島附近にまで達して居る。尙 1929 年には CARLO MENOZZI 氏が本種を中支の上海及び吳淞から報告して居る。

2. *Pristomyrmex pungens* MAYR, 1866 アミメアリ

職蟻1頭, 14. v. 1934, 竹島 (Apollo Island).

本種も本邦に於て普通種で、北海道・本州・四國・九州・朝鮮・臺灣・支那の江蘇省・浙江省等に廣く分布する。*Pristomyrmex japonicus* FOREL, 1900 は本種の異名であるが、昭和 14 年に江崎・堀兩先生と共著で出版した三省堂の原色日本昆蟲圖説の第 349 頁のアミメアリの學名は異名の方を採用して居るので茲に訂正しておきたい。

3. *Tetramorium guineense* (FABRICIUS, 1793) オホシワアリ

職蟻1頭, 14. v. 1934, 竹島 (Apollo Island).

本種は熱帶地方に廣く分布する蟻であるが、本邦内地では比較的稀で、和歌山縣の瀬戸附近・串本附近・高知縣の室戸崎近傍及び宮崎縣の青島等の海岸砂地等に營巢して居る事が知られて居る。

Subfamily FORMICINAE クマアリ亜科

4. *Camponotus japonicus* MAYR, 1866 クロオホアリ

小形職蟻 1 頭, 14. v. 1934, 硫黄島 (Volcano Island).

日本列島に於ては硫黄島が分布の南限となつたわけである。

5. *Camponotus (Myrmamblys) itoi tokioensis* ITO var. *atrigenatus* SANTSCHI, 1937

大形及び小形職蟻各 1 頭, 14. v. 1934, 竹島 (Apollo Island).

本變種は最近本州の山口縣から發表されたもので、竹島産の標本は先づ var. *atrigenatus* に同定すべきものと思はれる。